

# 週 報

2000年2月6日 降誕節第7主日

巻 20

45号

1999年度 教会主題

「互いに仕え合う」

聖句 兄弟たち、あなたがたは、自由を得るために召し出されたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせず、愛によって互いに仕えなさい。

ガラテヤの信徒への手紙 5章13節

- 目標
1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
  2. キリストの体なる教会形成に参加する。
  3. 教会創立20周年記念に備える。

日本キリスト教団 **横浜港南台教会**

横浜市港南区港南台7丁目8-29

郵便番号 234-0054

電 話 045-833-5323

F A X 045-833-6616

振 替 00290-4-13994

牧 師 秋 吉 隆 雄

と家族への伝道を目指す。教友制度を充実させ受洗後も配慮する。教会債が終わってから「宣教支援基金」のようなものを作るため、今からその準備を始めたらどうか。具体的に、初代・吉田光孝牧師、本郷台伝道所、小井沼宣教師などの名前があがった。私は、一方的な支援はあり得ない、相互の交流と共働が生かし合うと思っている。会堂建設が終わり、現住陪餐会員150名、礼拝出席100名を目標にしてきたが、達成されそうな今日、新たな開拓伝道も視野に入りたい。私は一教会だけの開拓伝道は困難で、近隣の諸教会との共同が良いと思っている。

4) 奉仕と交わり。顔と名前が一致しないので、名札をつけるように度々促す。又礼拝後のコーヒータイムを復活したい。教会の交わりは「井戸端会議」ではないので、聖書の学びと教会の奉仕を通して深められるのではないかと。

意味ある事を始める場合、思いつきではできない、深く折りエネルギーをためることが大切である。創立20周年を新しい使命と希望を見出す元年としたい。

## ◇牧師室より◇

「港南台教会の将来を語り合う会」を連続二回持ち、多くの方が参加し熱心に議論した。出された諸提案を役員会や教会総会で話し合い進めていきたいが、私の個人的な印象を書いてみたい。

1) 教育。子育て中の親たちと高齢者への配慮を必要としている。性別、年齢別の組織を固定化せず、互いに越境し合う「会」があってよい。教会学校を育てる仕組みを考える。教会全体で楽しく遊べる企画をする。

2) 礼拝。合同礼拝の持ち方を考え直し、クリスマスや野外礼拝を含め回数を増やしたい。未受洗者への配餐問題は洗礼式と聖餐式について学ぶ必要がある。そして現在のところ、反対の意見が多かったようである。

3) 宣教。次世代を担う若い人々